

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	電磁気学第二演習		
英文授業科目名	Exercises in Electromagnetism II		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科		
担当教官名	田口 聡		
居室	西2-625		

公開E-Mail	授業関連Webページ
taguchi@ice.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
この電磁気学第二演習では、電磁気学第二で講義された内容について理解を深めるとともに具体的な課題を解くにあたっての実力・応用力を身につける。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
微分積分学第一・第二，線形代数学第一，力学第一，電磁気学第一，電磁気学第一演習は既履修であること。さらに，電磁気学第二は同時履修でなければならない。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>

<b>【教科書等】</b>
参考書：「工科の物理3 電磁気学」渡辺征夫・青柳晃共著（培風館）

<b>【授業内容とその進め方】</b>
「電磁気学第二」の講義内容に合わせて進める。毎回の演習は以下のように行う。  毎回1週間前に5題程度の問題プリントを配布する。学生は、事前に全問の解答を準備し、演習時間中にそれらを用紙に記入して提出する。提出された答案は採点の後、次の演習時間に返却する。その時、答案の中から問題ごとに模範解答を選んでその解答者を指名し、その解答をもとに解説する。なお、授業時間内に提出された答案のみ採点する。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### (a) 評価方法：

毎回のレポートの結果と中間・期末試験を次のように総合評価する。

$$\text{成績評価} = (\text{レポートの評価点} \times 50\%) + (\text{中間試験の評価点} \times 25\%) + (\text{期末試験の評価点} \times 25\%)$$

ただし、中間試験と期末試験の両方を受けることに加えて模範解答の1回の発表実績が成績判定のための必要条件である。発表については、中間試験などの結果から内容を確実に理解しているとみなせる者に対しては免除する場合がある。

なお、この演習では、電磁気学第二の講義内容の理解を深め具体的課題への応用力を身につけることを意図していることから、合否判定は講義のそれと連動して行われる。

#### (b) 評価基準：

上記の成績評価の60%が合否のラインになる。このラインは具体的には以下の到達レベルに対応する。

- (1) ビオ・サバルの法則やアンペアの法則を理解し、電流磁界を正当に求めることができる。
- (2) 磁性体を含んだ場合の磁界構造を求めることができる。
- (3) 誘導起電力、コイル系が持つ磁気エネルギー、インダクタンスなどを求めることができる。
- (4) マクスウェルの方程式によって記述される電磁波界の基本的波動パラメータを決定することができる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

木曜日 16:15-19:15

### 【学生へのメッセージ】

電磁気学の学習では論理の筋道をおさえることが大切である。この点に留意して毎回のレポート答案を作成すること。

### 【その他】